

PRESS RELEASE

2022年5月17日

アッヴィ、IBD 患者さんを取り巻く「見えない壁」を解消する「I know IBD (アイノウ アイビーディー)プロジェクト」を始動

- アッヴィは「見えない壁」ともいえる IBD (炎症性腸疾患) 患者さんを取り巻く様々な課題を解消し、希望あふれる日常の実現を目指す
- 本プロジェクトでは、IBD 患者さんの日常生活での「見えない壁」の 1 つである外出時のトイレの不安解消と社会全体における IBD の理解向上に取り組む
- 国内の IBD 推計患者数は約 29 万人¹と、指定難病の中でもっとも患者数が多く²、患者数は年々増加傾向²
- 5月19日は、日本国内における IBD への理解を広げることを目的とした「IBD を理解する日」

アッヴィ合同会社(本社:東京都港区、社長:ジェームス・フェリシアーノ)は、5月19日の「IBD(炎症性腸疾患)を理解する日」に先駆け、IBD という疾患の正しい理解を広め、患者さんが「周囲の IBD への理解」を実感できる社会の実現に向けて「I know IBD プロジェクト(以下、本プロジェクト)」を発足しました。

本プロジェクトを通じて、IBD を正しく認知し理解する人が一人でも多く増えることで、疾患に対する認知度の低さや誤解、患者さんが日常生活で感じる不安など、「見えない壁」ともいえる、社会が気づいていない IBD 患者さんを取り巻く様々な課題を解消し、希望あふれる日常の実現を目指します。

指定難病である IBD は、大腸や小腸など消化管に炎症が起こり、将来的な腫瘍発現リスクが増加する可能性のある疾患で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病があります。国内の IBD 推計患者数は約 29 万人¹と、指定難病の中でもっとも患者数が多く²、患者数は年々増加傾向²にあります。下痢や腹痛が主な症状であるために周りに疾患であると気付かれにくい特徴に加え、トイレの回数の増加や、食

事の制限など患者さんの日常生活に様々な影響を及ぼすこともあります^{3,4}。それにより、IBD 患者さんは行動範囲、対人関係、心理面などで生活の質の低下が指摘されています⁵。

アッヴィは患者さんを中心に考える Patient Centricity の考えに基づき、2013 年に 5 月 19 日を「IBD を理解する日」に制定するなど、日本国内における IBD の理解を広げる活動を行ってきました。しかし、いまだに IBD に対する周囲の低い認知や誤解などによって、就学や就労、人間関係など様々な場面で課題が残り、IBD 患者さんを取り巻く「見えない壁」として存在します。

こうした背景から、アッヴィは社会が気づいていない IBD 患者さんを取り巻く様々な課題である IBD 患者さんの「見えない壁」を明らかにし、解消に取り組むことで、社会全体の IBD についての理解を高めることを目的に、「I know IBD (アイノウ アイビーディー) プロジェクト」を始動します。社会が気づいていない IBD 患者さんが感じる課題として、様々な「見えない壁」が存在する中で、患者さんの日常生活に影響するものの 1 つに、外出時のトイレへの不安があります⁶。トイレを理由に外出に気後れしてしまう、活動範囲が限定的にならざるを得なくなってしまうなど、本プロジェクトでは、こうした患者さんの日常生活の「見えない壁」に対して、様々な企業・店舗の協力を得て解消に取り組みます。

本プロジェクトの趣旨に賛同いただいた協力企業・協力店では、IBD 患者さんに対して、施設・店舗内トイレの貸し出しを行います。また、本プロジェクトのステッカーを施設・店舗内に掲出し、IBD 患者さんへの支援・理解の可視化につなげます。さらに、協力企業・協力店の従業員を対象に、IBD に関する教育資料の配布などを行い、社会全体での IBD の理解向上を目指します。

アッヴィは、本プロジェクトにより、協力企業・協力店を通じて IBD に対する理解が広がり、社会が気づいていない IBD 患者さんを取り巻く「見えない壁」を明らかにし、解消に取り組むことで、希望にあふれる日常の実現を目指します。

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消

化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[Instagram](https://www.instagram.com/abbvie)、[YouTube](https://www.youtube.com/abbvie) や [LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) でも情報を公開しています。

日本においては、1,400 人を超える社員が、医療用医薬品の開発、輸入、製造販売に従事しています。自己免疫疾患、肝疾患、神経疾患、がんの各領域を中心に、患者さんの人生を豊かにしたいと願い、日々の業務に取り組んでいます。詳しくは、www.abbvie.co.jp をご覧ください。

参考資料

I know IBD (アイノウ アイビーディー) プロジェクトについて

本プロジェクトの目的は、「見えない壁」ともいえる、社会が気づいていない IBD 患者さんを取り巻く様々な課題を明らかにし、解消に取り組み、さらには IBD を正しく認知し理解する人が一人でも多く増えることで、社会全体の IBD についての理解を高めることです。

IBD 患者さんを対象に行った調査では、7 割以上の方が「日常生活に何らかの影響がある」と感じています⁷。炎症症状による全身の倦怠感や睡眠への影響など、生活上の負担が大きくなることもあり^{3-5,8}、その象徴的な例として、半数を超える IBD 患者さんが「外出時にトイレの場所を“常に”チェックしている」と答えています⁷。

このように、患者さんの日常生活に影響する「見えない壁」の 1 つである外出時のトイレへの不安⁶ 解消に取り組むプロジェクトを開始しました。また、様々な企業・店舗の協力を得ることで、社会全体での IBD の理解向上を目指します。

具体的な取組みとしては、本プロジェクトの趣旨に賛同いただける協力企業・協力店を募り、IBD 患者さんに対して、施設・店舗内トイレの貸し出しを行います。また、本プロジェクトのステッカーを施設・店舗内に掲出し、IBD 患者さんへの支援・理解の可視化につなげます。さらに、協力企業・協力店の従業員を対象に IBD に関する教育資材の配布などを行い、社会全体での疾患認知と理解を広げていきます。

様々な企業・店舗の賛同を得て協力者の輪を広げていくことで、トイレの問題だけでなく、IBD 患者さんを取り巻く見えない壁を解消し、希望あふれる日常の実現を目指します。

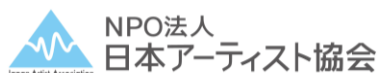
- プロジェクト特設サイト: <https://www.iknowibd.com/prj>
- プロジェクトロゴ

I know IBD

- ステッカー(協力企業・協力店での掲出を予定)



- 協力企業・協力店(5月17日時点) ※五十音順
NPO 法人日本アーティスト協会



株式会社シェルシュ 「ランタン 池尻大橋」

LANTERNE

DEPUIS 2014

|

Ikejiri Ōhashi

株式会社ジャムレストランコーポレーション 「braceria BAVA(ブラチェリア バーヴァ)」



株式会社トモエ 「トモエ薬局 春日野店」「トモエ薬局 高田店」



株式会社 Lond



Lond group

ハイアット リージェンシー 東京



IBD について

指定難病である IBD は、大腸や小腸など消化管に炎症が起こり、将来的な腫瘍発現リスクが増加する可能性のある疾患で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病があります。

国内の IBD 推計患者数は約 29 万人¹と、指定難病の中でもっとも患者数が多い疾患²で、国内患者数は年々増加傾向にあります²。IBD の発症¹は、これから社会で活躍する世代である 10-20 代で多く報告されていますが⁹、現時点では完治につながる治療法がなく、患者さんの人生を通じて大きな負担となる可能性もある指定難病です^{3-5,8}。しかし、適切な治療により症状を抑えることで、IBD と診断される前と変わらない生活を送ることも可能となってきました。

IBD は患者数の多さや発症年齢から⁹学校や職場など、さまざまな場面で周囲の理解が求められますが、一般生活者の 9 割以上がこの病を認知していないというのが現状です⁶。

「IBD を理解する日」について

日本国内における IBD への理解を広げることを目的に、2013 年にアツヴィ合同会社と患者団体 IBD ネットワークが 5 月 19 日を「IBD を理解する日」として、日本記念日協会に登録しました。欧州の IBD 患者会が初めて世界会議を行なった 1990 年 5 月 19 日を記念し、「世界 IBD デー」として、欧州クローン & 潰瘍性大腸炎患者連合会 (The European Federation of Crohn's & Ulcerative Colitis Associations: EFCCA) が定めた日に足並みを揃えたものです。

-
1. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 総括研究報告書 (平成 28 年度)
 2. 厚生労働省衛生行政報告例 (平成 30 年度末現在) より
 3. A comprehensive review and update on ulcerative colitis, 2019 Dec; 65(12):100851. doi: 10.1016/j.disamonth.2019.02.004. Epub 2019 Mar 2.
 4. The Facts about Inflammatory Bowel Diseases. Crohn's & Colitis Foundation of America. 2014. Available at: <https://www.crohnscolitisfoundation.org/sites/default/files/2019-02/Updated%20IBD%20Factbook.pdf>. (2022 年 4 月 7 日アクセス)

-
5. Quality of Life in Inflammatory Bowel Disease: A Systematic Review and Meta-analyses-Part I
Inflamm Bowel Dis. 2018 Mar 19;24(4):742-751. doi: 10.1093/ibd/izx100.
 6. アッヴィ合同会社プレスリリース(2021年5月11日発表) https://www.abbvie.co.jp/content/dam/abbvie-dotcom/jp/documents/press-release/2021_0511.pdf
 7. 株式会社 QLife IBD プラス編集部 「IBD 白書 2020」
 8. Mehta F. Report: economic implications of inflammatory bowel disease and its management. Am J Manag Care. 2016 Mar;22(3 Suppl): s51-60.
 9. 難病情報センター (<https://www.nanbyou.or.jp/>) (2022年4月7日アクセス)